

NIJIMA 広報野郎 チーム

(仮称)

大学広報の課題抽出と改善提案

ウェブサイトの課題

更新頻度

ページの配色

トップページのバナー

ページの階層

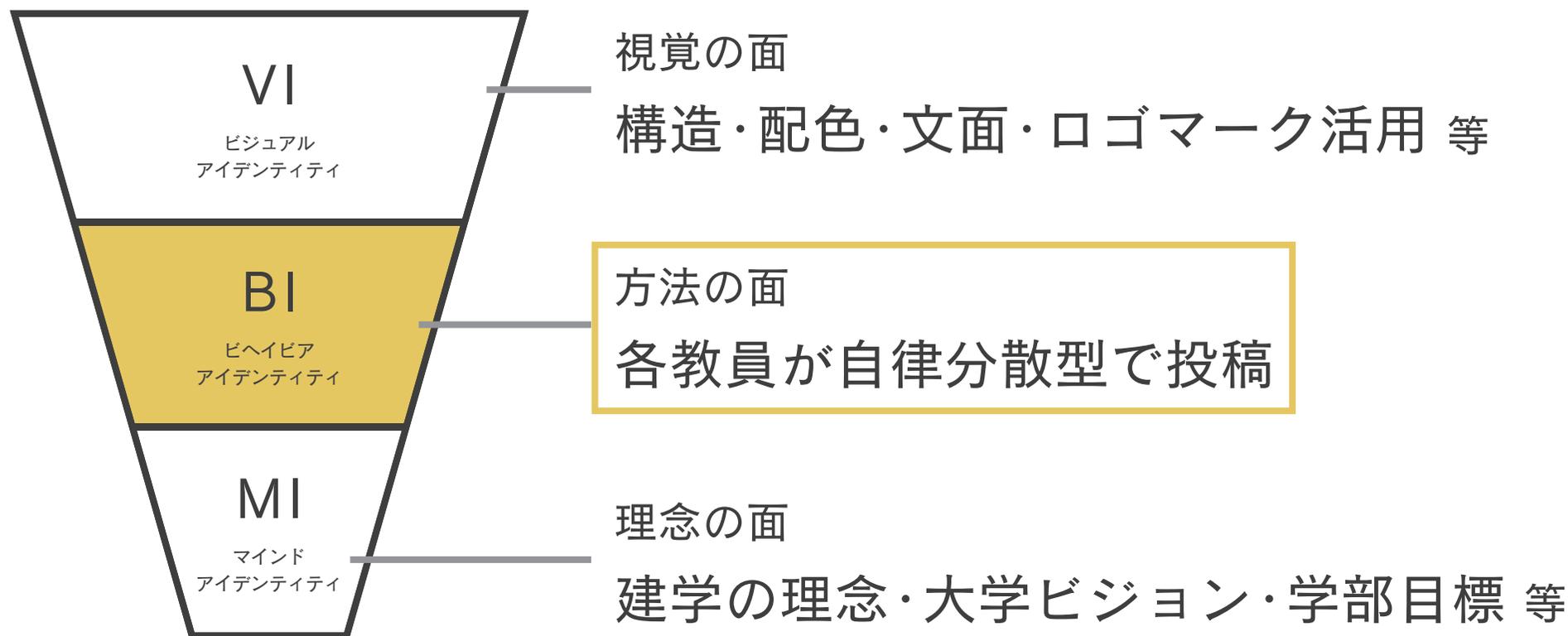
ビジュアルで映えない

学部やゼミの情報どこ？

文章だらけ

もっと根本的な課題があるのでは？

CIの考え方をを使って分析するなら…



方法面での課題

■ 更新出来ない……………教員は日々の研究で忙しい

■ 内容精査出来ない……………読む相手への意識が欠如

ゼミの教員と学生が一体となって広報できる仕組み
読む相手を意識した文章構成ができる仕組みが必要

ターゲット

地域の方・受験生が求める情報

大学が何を考えているのか

建学の理念・大学ビジョン・学部の目標・研究の目的 等

大学が何をしているのか

教員やゼミの研究活動・授業内容・学生の課外活動 等

「考えていること」と「やっていること」の双方で大学を理解

地域の方には「研究をお願いしたい・協力したい」

受験生には「この大学でこんな研究がしたい」と感じてもらう必要性

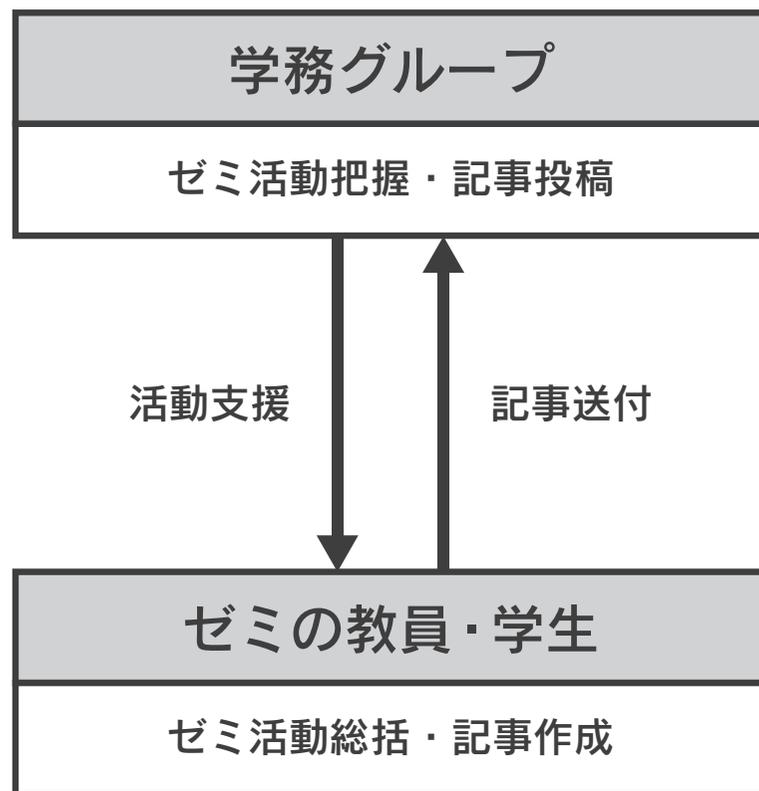
日々の大学活動の中で
自然に広報できる仕組みをつくる

N 広報野郎 チーム

(仮称)

ゼミの研究をしながら広報出来ちゃう 全学一体の仕組みづくり

広報までの流れ



①月に1度ゼミ内で進捗確認

研究の目的、これまでの経過、今やっていること、今後やること等をそれぞれ確認する

②進捗確認を基に広報記事作成

5W1Hを意識して「これまで・いま・これから」を簡潔にまとめた記事を作る

③記事を職員側で一括投稿

各ゼミから寄せられた記事を研究推進担当または広報入試担当等の職員側で一括アップロード

受験生の利点

この活動を一緒にしたいと思える

大学で何をしたいかを具体的にイメージし、長野大学を選択

教員・学生の利点

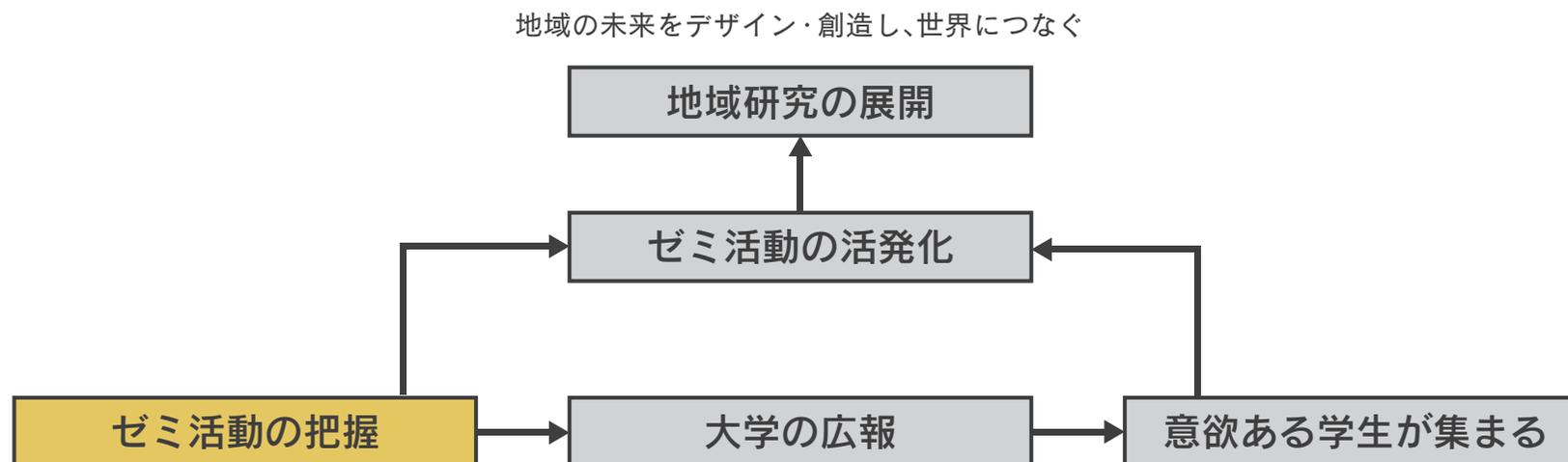
ゼミ活動の振り返りになる

目的意識・今何をすべきかが明確になり活動が活発化

職員側の利点

各ゼミの状況が把握できる

ゼミの活動に合わせた支援体制を作るための情報収集



ゼミ活動の一部に広報の過程を組み込むことで単なる広報のみならず
ゼミの現状を把握し、活動を活発化させる仕組みとして機能させる

建学の理念や大学ビジョンをゼミ活動を通して可視化させ

地域をつくる世界につなぐ大学としてのブランド化を!